

# 例会報告 Rotary



クラブアッセンブリー

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 下屋勝比古
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 塚本 直人
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

## <会長の時間>

6月9日ウルトラマラソンがありました。100kmと71kmの2種目がありますが、100kmというと高山西インターから関インターほどあります。100kmの制限時間は14時間ですが上位入賞者は7時間半~8時間、71kmは5時間と少しでゴールしています。10kmに換算するとフルマラソンのサブスリーを目指すとほぼ45分ペースで走るようになりますが、ウルトラのリミット区間のリミットは、84分ですのでかなり遅いです。フルマラソンは1キロ3分後半で走ることを思うとマラソンで記録が伸びなくなった方は、ウルトラや山を走るトレイルに変更すれば、ゆっくり走れるようです。完走率が全体では77.3%。71kmでは男子87.0%女子88.2%です。ちなみに10回も走る「あほ」な方が52名も表彰されていました。打江精機の打江社長や、ヒッツの大岩社長さんなどの名前がありました。翌日仕事しているのがもっとびっくりです。でもそれを応援にあちらこちら追っかける私は、まさに踊る阿呆に見る阿呆おなじあほならの通り、走った方が素晴らしいです。



先日、全国中学校体育大会の見直しが発表され、部活動設置率が20%を切る種目は2027年度より廃止となります。水泳・体操・新体操・相撲などですが、何といてもハンドボールも対象になりました。全中がなくなることでジュニアオリンピックカップなどにシフトを変えると、より保護者の負担が増え過熱化や早熟化の懸念があります。中学校の大会が終われば「引退」を口にする子いますが、競技が終了したのかスポーツそのものをやめるのか、スポーツを指導するものとしては、益々さみしくなってきました。

いよいよ、あと2回で今年度は終わります。昨年の今ごろ、垣内さんとは「管理者養成学校」を終了した同士としていろいろご指導をいただきました。今後ともお願いします。新しい体制で次に進むべき準備が進められていますが、昨年の今頃は財団事業の準備や事業計画など分からないことだらけで、毎日困っていました。米澤さんは一度経験しておられますので、スムーズで違和感のない運営を期待しています。

今日はアッセンブリーです。今年度の反省を次年度につなげてより楽しいクラブ運営を支えていただきたいと思います。次回の最終回は、欠席なきよう100%めざしてお願いいたします。



## <幹事報告>

### ◎ガバナーエレクト、チャリティーゴルフ 実行委員長より

- ・ガバナー杯チャリティーゴルフ大会
- 日程変更のご案内
- 日時 4月18日(金)⇒25日(金)へ
- 場所 名張カントリークラブ(変更なし)

## ◎高山市青少年育成市民会議より

- ・令和6年度「高山市少年の主張コンクール」開催について
- 日時 6月16日(日)13:10~
- 会場 高山市民文化会館小ホール

## ◎高山市市民憲章推進協議会より

- ・高山市市民憲章推進協議会総会書面表決結果について
- 全議案承認可決

## <例会変更>

- 可児 ... 7月4日(木)は、定款により 休会
- 7月11日(木)は、定例総会/懇親会のため、18:30~ 鈴川 に 変更

## <受贈誌>

- 高山中央RC(会報)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま vol291)、岐阜いのちの電話協会(広報誌第51号)

## <出席報告>

出席者数	会員数	出席率
25名	37名	71.43%

## <本日のプログラム> クラブアッセンブリー

S. A. A 鴻野 幸泰

副委員長:伊藤 松寿さん、委員:堺 和信さん、田中 晶洋さん、堀 幸一郎さん、水梨 弘基さん、大屋 尚史さんで活動いたしました。

基本方針は、例会場を全員で秩序ある楽しい場になるように協力を求める、とし、

担当例会では料亭 洲さきのご主人にお座敷のマナーについてお話を頂きました。例会ではロータリーソングのソングリーダーに出て頂き指揮をして頂きました。

## クラブ管理運営部門長 大村 貴之

基本方針を『各委員会の役割を理解し、クラブの効果的な運営のために活動する』として、今年度は、委員会ごとに委員を所属させ、例会当番等の役割を明確にして責任をもって活動できるようにしました。委員会によっては人員が少ない状況で協力しながら対応していただきました。ありがとうございます。ただ、担当を忘れていた方もいましたので、来年度は一人一人が責任を持って対応していただきたいと思ひます。



# 例会報告

また、今年度は翌月の例会プログラムを配布して、RC月間テーマ・例会予定・例会当番・会員誕生日・配偶者誕生日・結婚記念日など事前に確認していただけるようにしました。会員がどのように活用したのか分かりませんが、来年度も継続しますのでより良いものとなるよう掲載内容のアイデアを教えてください。一年間、ご協力ありがとうございました。



**会報・雑誌・広報委員長 挟土 貞吉**  
副委員長は高井 道子さんです。

① 本年度、我が委員会、会報への基本方針は、前年度に同じくホームページやFacebookへクラブ活動を定期的に掲載し、当クラブの活動を地域の方に閲覧して頂く事、加えて下屋会長テーマに鑑みメンバー各自による「人間力」を高める記事を会報に掲載しました。これが大変好評でしたので小冊子に纏めました。最終例会に配布いたします。編集への思いは冊子に委員長のコメントを付けていますので趣旨をご理解下さい。

② 雑誌紹介に於いては、毎月第一例会で、注目の記事を紹介し、クラブ内の情報共有と活性化を図れるよう努めたつもりでしたが、現実には委員長、挟土の脳トレリハビリを兼ねた独断と偏見なコメント付き、意味不明な紹介で皆さんお聞き苦しく、理解し辛かったことお詫し下さい。

最終例会名誉挽回を願ってAIに問いかけた文書を紹介しようとしたのですが、これもAIがロータリーの友を読んでいないようで射た紹介出来ず申し訳なく思っています。振り返って思う事ですが今年度、縦書き最初の記事「この人を訪ねて」の女性ロータリアンの人間力ある感銘する内容記事が多かった事です。皆さん今一度読み直してみてください。

③ 広報に於いては、ロータリーの友に2回投稿し掲載して頂きました。7月に行った「ロータリー財団、補助金事業」高山市青少年育成支援活動、土俵造りと稀勢の里元横綱、大講演会の記事を9月号に掲載、加えて後期5月号に特集 能登半島地震応援します記事にも下屋会長写真付きで我が西クラブと台北友好クラブとの支援金を掲載しました。これらによって我が西クラブの「品格と伝統」を図り、知名度を一段高め認知された事です。尚高山3RC合同活動記事を2月市民時報に掲載しました。

④ 他担当例会では、福岡大学元学長石田重盛先生の卓話を拝聴しました。どれも会長テーマに合致した活動が出来たと思いきや安堵しています。

⑤ 最後に下屋勝比古会長、私ごとき惚け老人身障者に、良き脳トレ、リハビリの機会を与えて頂き感謝しています誠に有難うございました。正にロータリーは「人生道場」であり学び多き一年でした。又中澤里恵事務局さん、会報と冊子作りありがとうございました。支出は事務局費で補って頂きました。以上が 会報・雑誌・広報委員会、高井道子さんと挟土貞吉の活動報告です

**出席・プログラム委員会 門前 庄次郎**

こんにちは、『出席・プログラム委員会』です。委員長に私門前、副委員長に榎坂 純一さんと二人で担当させて頂きました。

基本方針を『例会出席の向上を目指し、例会出席が出来ない会員にはメイクアップやオンライン出席を推奨する。\*例会担当委員会は会報原稿提出までが責務である事を確認し、有意義な場となるように円滑な例会運営を目指さす』。としております。方針から言いますと、あまり役目は果たせ無かったと反省しております。



今年度の出席率を振り返りますと5月までに例会が35回有り、1回だけ90%越が有り洲さきさんでの紅葉例会でした。また38%も一回有り、中尾の地熱発電所見学でした。やはり美味しい食事は魅力があるのかなと言うところで。

半数は70%代で80%と60%が1/4ずつでした。例会出席はロータリアンの義務の一つとなっています。皆さん忙しくて中々例会出席も難しい処だと思いますが、最近はオンライン出席も有りますし、メイクアップの方法も年間を通してと言うことで、しやすくなりましたのでそういった事も活用して、出席率を伸ばして頂きたいと思います。

また昨年12月8日の担当例会ではDEI推進小委員会委員長の野原佳子様に来て頂いて卓話をして頂きました。委員会の名前に有りますようにクラブの『多様性・公平性・公正さ』を大切にしながら、活性化する事が大切と話されました。当クラブもそういう事を意識しながら活動できると良いと、感じました。

**会員増強部門長 堺 和信**

部門方針は「継続的な勧誘活動と情報収集に努め会員の増強を図ると共に、会員の大会防止に努める」です。

会員増強部門には会員増強委員会、職業分類・選考委員会、ロータリー情報委員会の3つの委員会があります。

会員増強委員会の委員長は長瀬達三さんで、担当例会として8月18日と12月15日にオープン例会を開催し、それぞれ5名のゲストが参加して下さいました。8月18日は、高山商工会議所青年部会長の森本賢吉さんをお迎えし、高山YEGについてお話しいただきました。12月15日は、下屋会長が「伝統と格式のある高山西ロータリークラブ」についてと、本年度の活動内容について、プロジェクターを使いわかりやすく説明していただきました。ロータリー情報委員会の委員長は遠藤隆浩さんで、11月14日に前年度入会された大家さん、佐藤さん、平康裕さんに出席いただき、「知っておきたいロータリー情報」を中心にしてオリエンテーションを行いました。職業分類・選考委員会の委員長は古橋直彦さんで、2月の担当例会で高山警察署長 板谷和宏さんをゲストスピーカーとしてお招きした他、4月に宮川学さんが入会された折に活動されました。

下屋会長が掲げていたクラブ活動目標の実増4名を目指して活動していきましたが、退会者1名、入会者1名となり残念ながら実増ゼロでした。

次年度、大村部門長を中心に高井会員増強委員長さんの活躍に期待したいと思います。



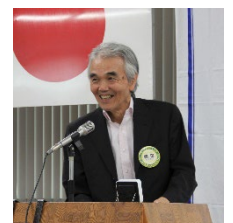
**職業分類・選考委員長 古橋 直彦**

職業分類、選考委員会の仕事は入会候補者が推薦されてから始まります。今年度は後期になってようやく理事会に候補者の方のお名前を挙げる事ができました。次年度以降、より活発な委員会活動ができる事を願っております。



**奉仕プロジェクト部門長 岡田 賛三**

奉仕プロジェクト部門では、部門長が働くまでもなく、各委員長さん方の活躍で活動を終了させる事が出来ました。ご協力に感謝いたします。



# 例会報告

## 職業奉仕委員長 田邊 淳

10月に中尾の地熱発電所視察を実施しました。これは、委員会基本方針にある「自らの職業においてSDGs取組を進めるとともにSDGsの理解を深める」に則ったものです。地熱発電所では、国内有数の設備も勿論ですが、発電所が出来るまでの10年間にわたる、地域との話し合いなどプロジェクトXばりの感動する話を聞け、大変有意義であったと思います。



今後も委員会はずっとSDGs関係する取組を行っていきたいと思います。

## 青少年奉仕委員長 榎坂 純一



青少年奉仕委員会では、出前講座と9か年表彰という2つの大切な事業があります。活動をするにあたり、下屋会長をはじめとし、ご参加いただいた皆様、そして事務局の中澤さんに大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年の活動を通し、基本的な道筋ができたと思います。

来年度以降は、より委員長の色を出した活動をしていただくことを期待しております。一年間ありがとうございました。

## ロータリー財団委員長 内田 幸洋

7月30日開催のロータリー財団補助金事業「相撲と触れ合う一日」について、9月15日の担当例会にて杉山実行委員長にその経過と成果の発表をして頂きました。また事業実施に先立ち7月16日には有志にて大相撲名古屋場所中日を観戦して充実した一日を過ごしました。



## 米山奨学委員長 斎藤 章



副委員長の井辺さんとの2人体制で担当させて頂きます。基本方針は、米山奨学事業について会員理解を求め、米山奨学会に対する寄付に協力する。米山奨学者になって頂く様をお願いすることでした。

例会を4月12日に担当させて頂きました。予算としては例会時に地区委員スピーチを予定しておりましたが、地区より米山奨学生を預かって欲しいとの要望で4年ぶりにお預かりすることになりました。4月7日に名古屋でカウンセラーの講習会があり、伊藤さんの代理出席をしました。本年度4月から次年度の3月末まで、前回と同様のミャンマーからピョーパイさん、中部学院大学短期大学部2年生、介護福祉学部在籍中です。来日前に日本語も勉強され随分と流暢にお話されます。卒業後は日本で働きたいとの希望を持っておられます。4月12日の担当例会に当クラブ初訪問され、皆さんにご紹介申し上げました。当日は委員長とカウンセラーの2人にて米山についてお話しさせて頂きました。以後、第一例会日にも出席され、先日は鶴飼い旅行にも参加されました。

前回は堺会長の時でしたが、メイ・スイートさんの卒業が遅れ、3クラブから支援金贈呈したことも懐かしく思いだされます。何が起るかわかりませんが、次年度宜しくお願いします。

積極的に動きませんでした奨学金の寄付についても宜しくお願い申し上げます。

## <ニコニコボックス>

### ●下屋 勝比古さん、田中 晶洋さん

暑くなりました。体調管理には充分気をつけて、猛暑に備えましょう。本日はクラブアッセンブリーです。最終例会に向けて今年度の反省と報告をお願いします。

### ●中島 一成さん

来週6月20日付で社長を退任し、その後は相談役になります。高山には10月中旬まで常駐し、その後は東京に戻ります。西クラブには9月末まで在籍します。残り3カ月ですが、引き続き仲良くお付き合い下さい。よろしく申し上げます。

### ●岡田 賛三さん、内田 幸洋さん、古橋 直彦さん、米澤 久二さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、鴻野 幸泰さん、田邊 淳さん、杉山 和宏さん、佐藤 貴史さん

暑い日が続いています。この暑い中、明日15日から7月末まで、市営神明駐車場へのバス乗り入れを休止して、別の市営駐車場や民間の駐車場に誘導する実証実験が始まるそうです。中橋や付近の道路で、バス等大型車両と歩行者との接触が懸念されており、実証実験で駐車場の受給バランスや観光客数の変化などを分析するとともに、バスの乗り入れ抑制による事業者への影響も調べるそうです。安全で快適な観光地高山を作っていくために、賢明なバスの乗り入れ方法を探って欲しいと思います。



## 人間力を高める

## 第 38 回

向井 公規

人間力と聞いて真っ先に思いつくのが、趣味の一つである、能の鑑賞です。能は演目の予習をしていかないと、全くと言っていいほど意味が分からず、つまらなく感じるかと思います。

能が好きな知人の誘いで、約 15 年前に国立能楽堂で『土蜘蛛』を観たのが、きっかけでした。『土蜘蛛』は能の初心者向けと言われているようですが、当時はさっぱり意味が分かりません。あらすじは、次の通りです。

武将・源頼光が病気で伏しているところへ現われた、怪しい僧。自らが蜘蛛であることをほのめかして糸を放ちますが、頼光が枕元にあった名刀を抜いて切りかかると、姿を消します。

駆けつけた頼光の家来たちは、化け物を追って葛城山に向かいます。古い塚から現れた土蜘蛛の精に、何度も糸を投げかけられながら激しく戦い、ついに土蜘蛛を退治します。

『平家物語』に題材を得て、派手な仕掛けや立ち回りによる活劇としてまとめられた作品です。意味が分からないまま観ていましたが、能面の表情に非常に驚いた記憶があります。能面は木で作られていますので、当然表情が変わるはずが無いのですが、薄ら笑いや怒りの表情が感じられました。

シテと呼ばれる主役は、喜多流の佐々木宗生氏でしたが、演技力とは何か違う違和感を持ちました。鑑賞後少し勉強をしたところ、能面は、面（オモテ）とも呼ばれますが、オモテに見せる顔をつけることで、演者はそのウラの暗闇の中に姿を隠すのだそうです。

シテは神様や鬼、幽霊など異界の者であることが多いため、私たち観客はシテを通じて「あちら側の世界」を垣間見ることになります。こちら側とあちら側（異界）を繋ぐ役割となるシテは、舞台上で生身の人間としてではなく、異界の者になりきることが求められます。そして感じたのが、佐々木宗生氏のオモテとウラを含めた人間力が、能面を通じて表情として表れているのだから！ということでした。また、観ているこちら側の状況や感情などで、見え方も変わってくるのかもしれませんが。

シテの人間力と、その時の自分の状況や感情を掛け合わせて、今も能面の表情を楽しみに堪能しています。ただ、それに寄って自分の人間力が高まっているかと言うと、はなはだ疑問ではあります…

## 人間力を高める

## 第 39 回

川瀬 裕之

この令和 6 年 6 月に入会させていただいた「新穂高ロープウェイ」を運営する奥飛観光開発の川瀬と申します。早く皆さまに顔を覚えていただけるようできる限り例会や行事にも出席したいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

さて、私は昭和 45 年の早生まれ（昭和 44 年の世代）で、まもなく 50 代後半に差し掛かります。私の世代は 20 代のころ「新人類」などと呼ばれた最後の年代で、ウィキペディアによると新人類とは、「成熟した成人として、社会を構成する一員の自覚と責任を引き受けることを拒否し、社会そのものが一つのフィクション（物語）であるという立場をとるとされた」そうです。

私が親会社である名鉄に入社したころ、当時の 50 代くらいの人たちからそんな目で見られていたのを覚えていますし、その後、就職氷河期に入社してきた後輩からは大量入社「バブル世代」と揶揄されてきました。ただ、人間力の基本となるコミュニケーションに関していえば、先輩後輩との飲みニケーションはもちろん、麻雀、ゴルフ、慰安旅行など昭和のお付き合いを全う？してきたように思います。

そして今、「Z 世代」と呼ばれる若手が社会人となり、コミュニケーションといえば顔を会わせることを余り好まずスマホ頼り、という何とも心許ない 20 代が増えていると感じるのは、恐らくロータリーの皆さまも同じではないでしょうか。

私も大学生の愚息がおり、やはり外で遊ぶよりも 1 日中スマホを握りしめ通信して遊ぶことを好むという目の前の現実もあります。しかし、表面的にはそんな風でも、よくよく話をしてみると思っている以上にしっかりした考えも持っており、当然のことながらデジタルツールの活用は私より遥かに長けています。

いつの時代も「若い者は」となりがちですが、若手から大先輩まで様々なコミュニケーション手段を駆使して知恵を集め、微力ながらももっとも世の中に貢献していきたいと思っております。